

2023年度の日本租税理論学会活動をふり返って

2024年1月1日
理事長 石村 耕治

あけましておめでとうございます。今年も、会員および役員の先生方には、日本租税理論学会への積極的なご支援、ご協力をくれぐれもよろしくお願いいたします。2023年度日本租税理論学会(租理学会/本学会)の研究大会・会員総会・理事会は、2023年10月20日(土)および21日(日)の2日間にわたり名古屋市内の名城大学天白キャンパスでハイブリッド(対面+オンライン)開催されました。会員の皆さま方の積極的なご参加、ご協力を得て、成功裏に終えることができました。会員の皆さま方に深謝申し上げます。

開催に向けて長きにわたり準備いただいた開催幹事校の伊川正樹理事、および同大学のスタッフの方々にも、あらためてお礼申し上げます。

また、望月爾事務局長をはじめとした租理学会事務局のスタッフの方々も大変ご苦労様でした。この場をかりてあらためて感謝申し上げます。

◆2023年度研究大会での報告者へのお礼

2023年度シンポのテーマはシンポジウム「雇用・教育と税制」でした。以下のとおり、3の一般報告に加え、6のシンポ報告、計9の報告と、きわめて多彩な内容でした。

◎一般報告①

河合基裕 「配偶者居住権をめぐる課税上の問題と考察～相続開始前に賃貸借契約があった場合の一考察～」

◎一般報告②

吉田貴明 「特別会計の創設と財政民主主義」

◎一般報告③

小森将之 「フォワードルッキングな貸倒引当金の損金算入可否に関する検討」

◎シンポジウム報告①

大城隼人 「デジタルノマドと税制～越境テレワーカー課税」

◎シンポジウム報告②

本村大輔 「ギグワーカーと所得課税・消費課税(仮題)」

◎シンポジウム報告③

武田浩明「副業／兼業収入に係る会計処理について」

◎シンポジウム報告④

成田元男「米国における雇用・教育関連の税額控除制度に関する一考察」

◎シンポジウム報告⑤

石川緑「教育、子育てと税制～女性活躍社会を見据えた租税制度の在り方～」

◎シンポジウム報告⑥

岩武一郎「教育事業への経済支援における税制の問題点－寄附金の所得税、法人税での取り扱いを中心として－」

各報告者や研究大会での司会を務められた長島弘理事および、総合司会を務められた望月爾理事には、心からお礼を申し上げます。

◆2024 年度以降の開催校およびシンポテーマについて

2024 年度以降の租理学会開催校およびシンポテーマ(仮題)は、租理学会理事会および総会で、次のように決まりました。

◎開催校について

- ・2024 年度： 日本大学法学部 東京・千代田区神田三崎町キャンパス
- ・2025 年度： 専修大学 東京・千代田区三崎町神田キャンパス

* 双方とも、9月～11 月、ハイブリッド開催(対面＋オンライン)

◎シンポテーマの選択について

- ・2024 年度：内外の消費税/インボイス制度の現状と課題(仮題)
- ・2025 年度：租税法律主義の理論と今日的展開(仮題)

一般報告では、シンポテーマとは関係なく自由なテーマで報告できます。しかし、会員から、しっかりした報告、深掘りした研究をするには時間が欲しい、2 年分くらいのシンポテーマを事前にアナウンスして欲しいとの意見もありました。

そこで、2 年分のシンポテーマ、具体的な報告タイトル想定例をアナウンスしておきます。シンポテーマは仮題ですし、再検討もあり得る形でアナウンスしています。よろしくをお願いします。

なお、研究大会での報告者は、公募および推薦の方法で、本学会研究大会企画運営委員会に諮り、精査のうえ決定いたします。公募は、毎年 4 月頃に本学会 HP でアナウンスしております。

申込報告者には、2023 年度と同様に、是非ともオンライン予備報告会への参加を

願います。報告は最終的に本学会発行の租税理論研究叢書に公表されます。予備報告会および報告後の討論は、報告者が公表される報告内容および研究叢書の質(QC)向上に重い意味を持つものであることをご理解いただければ幸いです。

【資料】

《2024年度シンポテーマ提案》

①2024年度： **内外の消費税/インボイス制度の現状と課題** (仮題)

[具体的報告タイトル想定例]

- ・デジタル空間にまで拡大する世界の消費課税の現状と課題[財政学/税法学]
- ・EU/イギリスのインボイス制度の現状と課題[財政学/税法学]
- ・EU/イギリスの「インボイス又は資料」要件に基づく「仕入税額控除権」の展開[財政学/税法学/税務会計]
- ・ペポル式デジタル(電子)インボイスの現状と課題[財政学/税法学/税務会計]
- ・カナダのインボイス制度の現状と課題[財政学/税法学/税務会計]
- ・オーストラリアのインボイス制度の現状と課題[財政学/税法学/税務会計]
- ・韓国のインボイス制度の現状と課題[財政学/税法学/税務会計]
- ・なぜ連邦消費税(VAT/GST)導入なしのアメリカは世界経済で独り勝ちなのか[財政学]
- ・生活者保護・インフレ対策としての消費税減税の世界の動向[財政学]
- ・インボイス制度と税務会計上の諸課題[税務会計]
- ・事例分析: 零細事業者の事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: 各種非営利・公益法人等の事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: 農業・漁業・林業などの事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: 各種土業の事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: 国外事業者の事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: ギグワーカー/一人親方の事業者登録の現状と課題[税法学/税務会計]
- ・事例分析: ブロガー/アフィリエイト等の事業者登録との現状と課題[税法学/税務会計]
- ・その他

《2025年度シンポテーマ提案》

②2025年度： **租税法律主義の理論と今日的展開** (仮題)

[具体的報告タイトル想定例]

- ・イギリスにおける租税法律主義理論の展開[財政学/税法学]

- ・アメリカにおける租税法律主義理論の展開[財政学/税法学]
- ・ドイツにおける租税法律主義理論の展開[財政学/税法学]
- ・フランスにおける租税法律主義理論の展開[財政学/税法学]
- ・わが国における租税法律主義理論の展開[財政学/税法学]
- ・「法の支配」と租税法律主義の異同[税法学]
- ・源泉課税・年末調整と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・記入済み申告と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・税務のデジタル化・AI 対応と租税法律主義の展開[税法学/税務会計]
- ・AI/ロボット生成課税処分 (RAIA generated tax decisions)と納税者の権利[税法学/財政学/税務会計]
- ・タックスコンプライアンスAI/アルゴリズム利用と法の支配[税法学/財政学/税務会計]
- ・デジタル (DX) 化時代の財政民主主義と租税法律主義[財政学/税法学]
- ・デジタル (DX) 化時代の税務会計と租税法律主義[税務会計/税法学]
- ・RAIA (Robot/AI/Automation)への所得課税と租税法律主義[財政学/税法学/税務会計]
- ・RAIA への消費課税と租税法律主義[財政学/税法学/税務会計]
- ・RAIA への資産課税と租税法律主義[財政学/税法学/税務会計]
- ・RAIA への国際課税と租税法律主義[財政学/税法学/税務会計]
- ・事例研究: 予測可能性・法的安定性と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 租税負担公平原則と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 実質課税の原則と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 信義誠実の原則と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 不確定概念と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 遡及課税と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 借用概念と租税法律主義[税法学/税務会計]
- ・事例研究: 諸外国の税務アルゴリズム開示法制分析[税法学/財政学/税務会計]
- ・その他

*

*

*

時代の流れも見据えて考えますと、今後、学会開催は、“ハイブリッド開催が標準モデル”になるものと想定されます。

会員および開催幹事校の先生方には、2024年度以降の本学会開催に向けて一層のご協力とご支援を切にお願いする次第です。

末筆ながら、会員の先生方のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。